



DOUJIN
R \clubsuit 18
For Adult
Only

僕とお布回と君

物心をついた時から
僕の傍にはお布団があった
その温かいぬくもりや
包み込んでくれるような
包容力が大好きで

触れていると
とても安心する

いつしかお布団は
僕の一部みたいになって

自分にとって
かけがえのない
ものになっていた

そしてある時
気が付いたのだ

僕の傍には
お布団みたいなの
親友が居たことに

ああそうか

エレンはお布団みたいに
僕にとつて無くてはならない
唯一無二の大切な存在なんだ

僕達はセックスをした

少しだけ意外だったのは

そう自覚した瞬間から
僕のエレンに対する気持ちは
親友の枠を飛び越えてしまっ

驚くほど簡単に

てつきりチーハンにしかっ
興味が無いと思っていたエレンが
満足そうに僕を食ってくれた事だ

その日から
僕達の関係は続いている



アルミン！

プリント持ってきてやったぞ！
いい加減部屋から出て来いよ
もう外はそんなに寒くねえし

……ん？

アルミン……？



お布団って……

どんな夢
見てんだよ



何だ……
寝てんのか？

しょうがねえな……

おい
アルミン

ゆさ

ゆさ

まあ……昨日かなり
無理させちまったしな……

ふい……

ん……

……ん

エレン…？
おかえり…

おま…っ！

何で服着てねえんだよっ！
無防備すぎるだろ…！

だって…
どうせエレンが来たら
全部脱ぐことになる
と思って…

ダメだった…？

いや全然
ダメじゃねえけど？！

もぞ
もぞ

つか…
入ってきたのが
オレじゃなかったら
どうするんだよ

大丈夫だよ

お布団を被ってれば
わからないし

それに…

裸の方がお布団の
感触が伝わって
意外と気持ち良いよ

アルミン！

！？



いつも
僕の思考を
ぐちゃぐちゃに
溶かして
ダメにしてしまう



エレン
僕頑張るよ!

ミカサの次には
余計だろ……

あいつは人間離れ
しすぎてるんだよ

つーか、丁度今日は
体育館使ってる部活動も
ないらしいぞ

本当?

じゃあ気兼ねなく
練習できるね……!

ミカサの次に運動神経の良い
君に教えてもらえたら
僕でも出来る気がするんだ!

二人きりで
練習だけで済むかな

じゃあ着替えて
準備するか

跳べない原因が
わからないと
アドバイスも
できねえからな

うん!
よろしくね
エレン!

まず一回
跳んでみる
アルミン

よしっ

うんっ

やってみる!



お前、リヴァイ先輩に
作ってもらった頭巾が
あったらどう?

あれは…この前
クリーニングに
出しちゃって…

なるほど…

うん!

んじや仕方ねえな
取りあえず今日は
コツだけ説明して
やるから覚えろよ

いいか?
踏切は両足を
揃えて…!

跳ぶ時は
腰を高く上げろ

う…うん

手を付く位置は
もつと前の方だ
しっかりと腕を伸ばして
こつちの方に…!

わ…っ

いつも見てるけど
真剣な顔のエレンも
格好良いなあ…

絶対にモテるのに
エレンはどうして
僕なんかと付き合っ
てくれたんだろう…!

エレンの手
温かいな…

あ、

どうしよう…
ドキドキしてきた

そう云えば

初めてえつちした時も
エレンは嫌悪感なく
僕に触れてくれたっけ…

…っ



アルミン？

どうかしたのか？
さっきから黙ってんけど

えっ、あ……！

あはは……っ

ごめんっ
ほーっとしちやっつて！

エレン？

ああ……
そのままとび箱に
手ついてろよ

え？

えっと、踏切は
両足を揃えて……
跳ぶ時は腰を高く
上げるんだよね……っ



ちよっと
エレン……っ!!
何してー

学校でそんなこと
考えるわけない
だろう……っ!

そうか？

オレは今
考えてるけどな

……っ!!

あ……
や、

あ……
や、

アルミン、お前
今エロいこと
考えてただろ？

かつ、考えて
ないよ……！

嘘……っ
何でこんなことに……！

アルミン……

さすがにこれはダメだよ……
こんな所で……！

いくら何でも
一緒のお布団に
入ってたら…

でも…

はあ…

はあ…

はあ…

だからオレが
ここに居るって
バレなきゃ平気だろ

ちゃんと
見張ってるよ
アルミン

エレンのことしか
考えられない

見張るって
こんなことされてるのに
頭だけ冷静になれなんて
無理に決まってる。

それ以外
考えたくない

エレンの体温…

どうしよう
すごく気持ちいい…

アルミン

ちよつと身体
ずらせるか？

う…んっ

僕

学校でエレンと
いけないことして
気持ち良くなっちゃってる

声出ちゃうよお…っ

イキたかったら
イツても良いぞ



エレン……ッ

それ……っ、ダメ……
口でされたら
立ってられな……

エレンの舌が熱い

手も舌も
僕の弱い所ばっかり

こんなの……

すぐにイツちゃ……

なあ、

アルミン

な、に……？

お前、布団が大好きだから
コレも布団で抜く方が
良いのかと思って

よ……っ！
良くないよ！！

お前どっちがいい？

オレに触られるのと
布団に触られるの

……へっ？！

どういう意味？

大体何でそんな
発想になったの？！

確かにお布団は
好きだけどっ
僕変態じゃないし！

本
迷
い
な
ら
な
い

じゃあ
オレで良いんだな？
アルミン？

お布団じゃなく
オレにイかせて
欲しいってことだな？

そ……っ

もじ……

そうだよっ

なら……

お前が布団の夢じゃなくて
オレの夢を毎晩見るくらい

オレとのセックスを
刷り込んでやるから……

ちゃんと覚えとけよ？

いつか寝言で
絶対にオレの名前を
云わせてやる

エレンは時々

僕のお布団に嫉妬する

え……

夢って
何の話……

っ!!

そういう時のエレンは
少しだけ意地悪で

強引な抱き方を
したりする

エレンが僕に向ける
独占欲と執着心が
嬉しくて

ますますお布団と
離れられなくなっ
てしまう

でも

お布団よりももっと

僕が離れがたく思っているのは

……

……

他の誰でもない
エレンだったこと

は……

……

君は知ってるのかな

アルミン……

口に、出すけど……
飲まずに待ってるよ……

……!!
も……つ、出る……!!

ん……

後でちゃんと
お前の中にも
出してやるから

口の中……
エレンで
いっぱい……

アルミンツ

く……!!



本当は
ローションの方が
良いんだろうけど

今は
オレので我慢な

好きなのは
指だけなのか？

ち……ちが……っ

エレンが好き
エレンの、全部が
好き……！

大好きいっ

だよな

好きじゃなきゃ
こんなエロいこと
できないよな？

……っ

ねえ……

エレンは……？
エレンも僕のこと
好きなの？

それとも……
ただこういうのが
好きなだけ……？

親友だから
とび箱の練習みたいに
仕方なく付き合っ
てくれてるだけな

アルミン

お前なあー…

いくら親友でも
仕方なくてセックスなんて
できねえし、するわけないだろ

今この状況で
訊くことかそれ…？

大体、散々抱かれといて
今までオレの気持ち
理解してなかったのか？

だ、だって…
エレンはチーハンにしか
興味ないと思ってたから…

オレだってお前はずっと
布団にしか興味ねーのかと
思ってたよ

だから

お前の気持ちを知った時は…
すっげー嬉しかった

云っとくけどな…

オレ、お前のその布団が
人間だったら…
絶対にお前の傍には
置いておかないからなっ

だから！
お前の一番傍にいるのは
オレだけで良いって
云ってるんだよ！

今も昔も、
これから先も
ずっとだ！

…え？



いや、流星にチーハンを
恋人にはしねーだろ

チーハン
はっ、はっ

大体、オレはけっこう前から
チーハンよりもお前の方が
美味そうだと思ってた

えっ



エレン……っ

僕だつてもしも
チーハンがエレンの
恋人だったらシヨックで
生きて行けないよ……!



ぼっ、僕は
食べ物じゃないよ!

あつ、でもエレンが
舐めたり噛んだり
してみたいなら別に
少しくらい痛くても
かまわないと云うかっ

ぶる
ぶる

アルミン

それに、
個人的にはエレンに
求められるのは好きで
君が望むなら多少は
アブノーマルなプレイも
試してみても良いとか
思ったり思わなか

わかったから
落ち着けて



…要するに!

アルミンはオレにとって
チーハン以上に欲しくて
たまらない存在って事だよっ

う、うん……?

別に本気でお前のことを
齧ろうとか思ってたねえよ……

まあ、お前が良い人なら
甘噛みくらいはするかも
しんねーけど……

今更お前が
嫌だって云っても

離してなんて
やんねーからな

それだけオレが
お前を好きだってこと

ちゃんと自覚しとけ

ああ、ほら……

君はまた

そうやって僕をダメにする

アルミン……

オレもう、
結構キツいんだが……

心も身体も全部
エレンだけで満たされて行く

僕だって……っ

エレンの傍に居たい……
離れるなんて
考えられない……!

挿れてもいいか……？



いよ……っ

挿れて…、エレン……っ

たとえお布団を手放す日が来たとしても

僕はきつと、君だけは手放せないから……



あ、あ
えれ……っ

エレン……！

むしろ熱いくらいで

身体中がエレンで
いっぱいになる

気持ち良くて
幸せでたまらない……！



アルミン……
気持ち良いか？

エレンと身体を重ねている時は
不思議と寒さを感じない



アルミン…っ
なか、すげえ
持っつかれそうだ

い、あ、
ち…つくび、や…！
だめえっ！

アルミン…



んあ、
も…っ
い、いきさう…
エレンっ

ああ、オレも…っ

ね、待って…だめ…！
き、キス、したいっ

前から…っ、シて、
いっばい突いて…

お布団、
落ちちゃっても
いいから…
エレンがいれば
大丈夫だから…っ

結局、とび箱の練習どころじゃなくなってしまう僕達は

……んっ

そのまま人が来ないのを
良いことに……



もう二度

今度は体育倉庫内で
エレンと仲良くして
しまったのだけれど……

はら、アルミン
とび箱……跳ぶんだろ？

跳んじり
ぼく、跳んじり
おっ、おっ



何だかんだで
その後のテストも

ひゃああ
僕のとび箱で
エレンと……！
恥しいよわっ

ストツ

よくわからない内に
乗り切れてしまったのである

合格



おーい、
アルミン！

中間テストの勉強
一緒にしようぜ

って云うか
勉強教えてくれ！

すっ

……って！
また寝てるのかよっ

どうせまた
お布団の夢
見てるんだろ……！

僕とお布団と君

Attack on Titan Fan Book 03

Eren × Armin
Publication... 2016/09/04
Printed... STARBOOKS
Presented by... Mituha
Ophelia complex : オフィーリアの柩
Pixiv : 2772852
twitter : 3ituha_aot

初めまして&こんにちは。
この度は本書を手にして下さりありがとうございました。
今回は巨中(現パロ)設定をお借りしてお布団ミンの本になりました！
個人的にお布団ミンは進撃界のどのアルミンよりも
えっちな雰囲気があるなあと勝手に思っています(笑)。
あのお布団のフォームがいけない(笑)。
そんなこんなでちょっとえっちな本ですが、
少しでも楽しんでいただければ嬉しいです！
当初は体育倉庫と保健室ですけべしてもらおう予定だったのですが、
諸々の余裕がなく入らなかったのも、また別の機会に巨中本を出したいなど。
(今回も倉庫じゃなくて体育館でしちゃってますが許してください/笑)
ではでは、無事に本が出せますようにと祈りつつ☆

禁/無断転載・オークション等
一般の方の目に触れるような
お取り扱いをご遠慮ください。
ご協力、宜しくお願い致します。